

第6章 総括

第6章 総括

(1) 危機管理における包括的支援体制整備の手順

今回の調査において、コミュニティ DMAT の有用性についてはいずれの職種も必要であるとしている。

すでに整備計画が進行している大規模方の支援体制とともに、地域における災害時初動体制の整備を立ち上げなければならない。

そのためには、以下の手順が必要となる。

- ① 全国規模で各地域ごとの『**基本コミュニティ DMAT の作成**』
- ② 基本コミュニティ DMAT に地域ごとの医療資源・介護資源を挿入して[ハード MAP]を作成
- ③ ②に第一章(4)ー2)災害時支え合いマップと同様に、住民動態と動線をマッピングする。[ソフト MAP]を作成。
- ④ ②③を融合させた**コミュニティ DMAT-MAP『ComDMAP』**を作成。
- ⑤ 各種災害を想定し、事例ごとの対応フローチャートを作成する。
- ⑥ ⑤に基づき地域ごとに協議会を開催し、定期的に防災訓練を行う。
- ⑦ ②③の変更のたびに、②～⑥を繰り返して行う。

地域に根ざした防災支援体制の整備には『**きっかけ**』が必要である。基本コミュニティ DMAT を利用することにより、地域ごとの ComDMAP が作成され適正な運用がなされる方向づけが、第一に求められる。

外部からの DMAT に頼らず、災害時初動体制を迅速かつ円滑に機能させるためには、上記の手順にしたがって整備してゆくことが望ましい。

今後は実質的な『**基本コミュニティ DMAT の作成**』に携りかからなければならないであろう。

(2) 情報収集

在宅医療や訪問介護サービスの普及を通じて地域医療・介護の連携をはかり、それがひいては災害時の救命

- 地盤の危険度・倒壊危険度の把握
- 医療力・介護力・要援護者・医療資源の把握
- 地域内・地域間の情報伝達手段の把握

(3) 基本コミュニティ DMAT

- 上記情報
- 搬送経路・徒歩による情報伝達経路を明示
- 医療施設・介護療養施設の耐震能力

(4) 災害下の情報伝達と ComDMAP

地域内：

マップを基本とした情報伝達

地域間：

防災無線の活用

第1章で述べたような電子掲示板システムの活用

訪問サービスを行う医療・介護従事者においては、半数以上が、自らが属する施設・事業所の掲載を求めた。

各種情報を網羅したマップは配布されておらず、また危険箇所などの情報を組み合わせたマップを作成するのは容易ではない

最新情報の掲載

判読性の確保（パブリッシング能力）

そこで以下の情報を網羅した小地域白地図の配布を提案する。

- ・倒壊危険度などの危険度情報
- ・土砂・洪水などの危険部位
- ・医療施設（病院・拠点となりうる診療所）
- ・道路・水系・鉄道

また、

医療・看護・介護マンパワーの実態調査と整備

を求める。特に

トリアージ能力

軽症者～重症者対応の能力

呼吸器障害など重症者対応の経験のある介護者マンパワー

都道府県や市区町村全体での被害者数のみではなく、50m～1km メッシュ内の被害者数の算出

災害は年齢・居住年数に関わらず降りかかるものであり、また、人口密集する大都市で

も、居住人口もしくは就業人口に対して診療所の整備が少ない地域もあり、災害に遭ってから初めてそのことに気付くということもあるだろう。

(5) 災害医学研究の動向とコミュニティDMATの展開

本研究と時を同じくして、2008年春から、災害医療関係の業績が次々と刊行されている。主たる業績と概要を以下に示す。

しかしながら、地域に根差した、在宅療養支援診療所を活用するコミュニティDMATの提言は、本研究が嚆矢である。今後、本研究を進展させ、平生の24時間365日の在宅医療サービスの提供に加えて、災害時、非常時の支援診療所の機能を検証する研究を推進してゆくことが喫緊の課題である。

1) 山本保博・鵜飼卓・杉本勝彦／監修：災害医学 改訂2版、南山堂、2008年

第1章 災害医学と災害医療

- a) 災害医学の理念と教育
- b) 災害医療のあり方

第2章 災害医学と関連領域

- a) 災害医学の学問的位置
- b) 災害の人的被害に対する多方面からのアプローチ
- c) 防災の科学的根拠
- d) 人的被害予測
- e) 防災システム評価に関する研究

第3章 災害医療へのアプローチ

- 1. 災害の疫学
- 2. 災害医療における評価
- 3. 災害医学と情報

第4章 自然災害

- 1. 地震災害
- 2. 火山噴火災害
- 3. 気象災害（風水害）
- 4. 災害と感染症

第5章 人為災害

- 1. 火災
- 2. 交通災害
- 3. 産業事故

第6章 災害対策

1. Preparedness and Planning
2. 災害における Logistics (ロジスティクス)
3. 災害時の医療の原則
4. Confined Space Medicine (瓦礫の下の医療)
5. トリアージ (Triage) と 3T's
6. 災害看護
7. わが国の災害医療体制
8. 大規模災害における広域患者搬送
9. DMAT
10. MIMMS
11. ICS (災害時コマンドシステム)

第7章 国際社会と災害

1. 国際社会における災害支援
2. 災害支援(援助)に携わる国際機関
3. 国(政府)の人道支援組織
4. 非政府組織—国際 NGO
5. 援助協力・協調

第8章 災害と精神医学

- a) 災害がもたらす精神的影響
- b) 災害時の心理的反応段階
- c) 災害という「トラウマ体験」
- d) トラウマ反応
- e) ASD, PTSD
- f) 心理学的介入のポイント
- g) 被災住民に対する精神保健対策
- h) 精神科治療の流れ

第9章 Crisis Management in Disasters

- a) 危機管理者の立場からみた災害の定義
- b) 救急医療施設に関する大規模災害の性質
- c) 災害時の危機管理
- d) 災害対策における病院と地域の協力
- e) 病院の災害対策
- f) 大規模災害の被災者管理・災害対策
- g) 災害時における治療
- h) 災害の余波

第10章 災害と法

- a) 災害と関連法規
- b) 災害医療対応体制に関わる法令
- c) 武力攻撃事態等への対応体制に関する法令
- d) 国際緊急援助に関わる法令

第11章 特殊災害

1. Complex Humanitarian Emergencies (CHEs)
2. マスギャザリング医学
3. 難民保健から避難民援助へ
4. テロリズム
5. Biological Disasters (生物兵器・テロへの対応)
6. Chemical Disasters (化学兵器・テロへの対応)
7. 核災害
8. International Repatriation (国際帰国搬送)

第12章 災害医学用語

1. 機関名
2. その他の略語

2) 大橋教良／編：災害医療：医療チーム・各組織の役割と連携、へるす出版、2009年

第1章 災害に備える

災害医療に関係する法令

災害に備えるために必要な病院の設備、装備、備蓄、備品

災害訓練：病院を拠点とした訓練の重要性

災害医療研修

第2章 災害医療を支えるもの

災害における各組織の役割

HICS (Hospital Incident Command System) に学ぶ災害時の4病院組織の考え方

広域航空医療搬送と SCU (Staging Care Unit)

災害医療における後方支援

第3章 災害時に特有の医療

トリアージ

CSM (Confined Space Medicine)

クラッシュシンδροーム

災害による死亡と法医学：個人識別と検案

被災者・遺族・救援者のこころのケア：

救急医に知ってほしいこと

第4章 災害の種類別にみた対応

大規模地震災害と病院の対応

水害と病院の対応

大規模交通事故と病院の対応

NBC 災害と病院の対応

大規模イベントによるマスギャザリングと病院の対応

第5章 災害派遣の実際

DMAT の現場派遣：必要な装備と派遣・運用の実際

避難所における健康管理と医療班派遣

国際緊急援助隊における JDR 医療チーム派遣の実際

3) 小林國男・鈴木哲司／監訳：患者搬送ハンドブック、メディカ出版、2009 年

1 章. 患者搬送の概要

2 章. 患者搬送の生理学

3 章. 搬送前の安定化

4 章. 陸上搬送業務の具体的な手配

5 章. 病院内搬送業務の具体的な手配

6 章. 集中治療室間の搬送

7 章. 専門化された臨床上考慮すべき問題

8 章. 小児患者の搬送

9 章. 国際的な帰国搬送

10 章. 装備とモニタリング

11 章. 事故現場における安全性

12 章. 搬送にかかわる法的問題

4) MIMMS 日本委員会／監訳：Hospital MIMMS 大事故災害への医療対応、永井書店、2009 年

PART 1：序論

第1章 大事故災害の疫学および発生頻度

第2章 来るべき大事故災害に対する準備はできているか・

第3章 病院対応の体系的アプローチ

PART 2：準備

第4章 大事故災害対応計画の立案

第5章 大事故災害用資器材

第6章 訓練

PART 3：運営

第7章 折りたたみ可能な階層構造の考え方

第8章 診療組織の階層構造

第9章 看護組織の階層構造

第10章 病院管理組織の階層構造

PART 4：支援

第11章 大事故災害の宣言と計画の発動

第12章 受入期

第13章 トリアージ

第14章 根本治療期

第15章 回復期

PART 5：特殊な事故災害

第16章 有害化学物質の関連した事故災害

第17章 多数の熱傷者が発生する事故災害

第18章 多数の小児傷病者が発生する事故災害

5) 黒田裕子・酒井明子／監修：新版 災害看護 人間の生命と生活を守る、2008年

第1部 災害，災害看護に関する知識

1 災害の歴史にみる看護

2 災害看護に関連する理論

3 災害医療に関する法律問題

4 災害サイクル

5 災害の種類と災害種類別・対象者別による被害・疾患の特徴

6 災害時の被災者および救援者の心理（心理回復プロセス）

7 災害情報の収集と伝達

8 災害マネジメント

9 災害時要援護者対策

Column 1 新潟県中越地震における「震災後の看護職員のアンケート調査」からわかったこと

Column 2 住民を混乱させた新潟県中越沖地震

Column 3 能登半島地震における保健師活動

Column 4 阪神・淡路大震災を振り返って

第2部 看護の役割と看護活動

- 1 災害看護の定義と役割
- 2 災害の時期別看護
- 3 避難所における看護ケア
- 4 仮設住宅における看護ケア
- 5 関係諸機関，他職種との連携
- 6 在宅，地域における連携
- 7 保健衛生管理（感染症対策，保健指導）

Column 5 被災後の地域復興～ある集落の事例から～

Column 6 被災地復興の第一歩～寄り添うということ～

第3部 ケアの実践

- 1 災害時に必要な技術
 - (1) 心肺蘇生（AEDを含む）
 - (2) トリアージ
 - (3) 救急技術（応急処置，循環・呼吸管理，外傷治療，搬送）
- 2 精神的援助（こころのケア）

Column 7 看護の原点に触れた体験

～忘れられない黒のトリアージタグ～

第4部 これからの災害看護教育

- 1 看護基礎教育における災害看護教育のあり方と教育プログラムの実例
- 2 災害看護研究と今後の課題

Column 8 スマトラ島沖地震・インド洋大津波被災地

インドネシア共和国バンダアチェにおける，被災看護師の支援調査活動

6) 酒井明子・菊池志津子／編：災害看護、南江堂、2008-12

第1部 総論

第I章 災害および災害看護に関する基礎的知識

1. 災害・災害看護の歴史
2. 災害・災害看護の定義
3. 災害の種類と疾病構造，災害サイクル
4. 災害看護に関連する理論

第II章 災害発生時の社会の対応やしきみ，個人の備え

1. 災害に関する制度
ー災害対策基本法・災害救助法・防災計画など
2. 災害情報と伝達やしきみ

- 3. 国内外における災害関係各機関の支援体制
 - 4. 個人の備え, 災害ボランティア活動
- 第 III 章 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響
- 1. 災害時の地域アセスメント
 - 2. 災害時要援護者への支援
 - 3. 災害時の被災者および援助者の心理
- 第 IV 章 災害時に看護が果たす役割, 災害各期における看護活動
- 1. 災害看護に期待される能力と災害看護の基本姿勢
 - 2. 災害サイクル各期における看護活動
 - 3. 避難所・仮設住宅・復興住宅における看護
 - 4. 災害時における社会資源の活用
 - 5. 地域住民との連携
 - 6. 災害時に必要な技術 (1) ー トリアージ
 - 7. 災害時に必要な技術 (2) ー 応急処置・搬送
- 第 V 章 病院における災害看護
- 第 VI 章 災害看護研究の動向
- 第 2 部 各論
- 1. 地域看護と災害
 - 2. 母性看護と災害
 - 3. 小児看護と災害
 - 4. 高齢者看護と災害
 - 5. 精神看護と災害
 - 6. 慢性期看護と災害
 - 7. 感染看護と災害

7) 小原真理子／監修：いのちとこころを救う災害看護、学習研究社、2008-06

- 第 1 章 災害看護の基礎知識
- 1. 災害とは
 - 2. 災害救助法と関連法規
 - 3. 災害による疾病構造
 - 4. 災害看護
 - 5. 災害サイクル
- 第 2 章 実践 災害サイクルからみた各期の対応
- 1. 災害サイクル急性期
 - 2. 災害サイクル中・長期 (被災地域での生活)

3. こころのケア

第3章 静穏期とこれからの災害看護

1. 医療施設における防災と減災
2. 地域連携システム
3. 国際協力活動

第4章 COLUMN 近年に発生した主な災害の特徴と看護の実際

8) 谷直人・松尾収二／監修：災害医療と臨床検査、克誠堂出版、2008年

第1章 総論

- A. 災害医療と簡易迅速検査
- B. 災害派遣医療チーム（DMAT）活動に必要な資材
- C. 臨床検査情報の管理と通信システム
- D. 災害医療における臨床検査担当者の人材育成

第2章 各論

- I. 代表的な簡易迅速型臨床検査法の特徴
 - A. ドライケミストリー法
 - B. イムノクロマトグラフィー法
- II. 簡易型検体検査機器・試薬の活用
 - A. 一般生化学・免疫検査
 1. 卓上型多項目全血分析装置
 2. 携帯型多項目全血分析装置
 3. 血液ガス
 4. 電解質
 5. 心筋マーカー
 6. 医療用簡易型血糖測定器
 7. CRP—全血免疫分析装置
 - B. 血液検査
 1. 血球分析
 2. 血液凝固検査用携帯型測定器
 - C. 感染症—イムノクロマトグラフィー法
 1. 市中肺炎（肺炎球菌，レジオネラ菌）—尿中抗原検出法—
 2. 細菌感染症の迅速キット検査（食中毒を含む）
 3. プロカルシトニン
 4. RSウイルス，アデノウイルス，ロタウイルス
 5. インフルエンザ

- 6. HBV, HCV, HIV
- 7. 性感染症 (STD)
- D. 尿検査
 - 1. OTC 尿検査薬
 - 2. 試験紙を用いた尿化学分析
- E. 妊娠診断—OTC 検査薬の活用
- F. 薬毒物検査
- G. 輸血検査—無遠心血清分離真空採血管の利用—
- III. 簡易型生体機能検査機器の活用
 - 1. 血圧計・体温計
 - 2. 携帯型心電計
 - 3. パルスオキシメータおよびピークフローメータ
 - 4. 携帯型超音波測定装置
 - 5. 携帯用 X 線装置

9) 医学のあゆみ 226/9 2008 年 8 月 30 日号

救急医療 UPDATE—現状と展望

病院間連携

救急医療での病院間連携—現状と展望

行政

【病院前救急】

東京都の島しょ地域における救急患者搬送

遠隔医療の技術をいかにして救急医療へ役立てるか

—日本版 EHR から究極の予防医学である

バイタルケアネットワーク構想の実現へ

【ヘリ救急】

ヘリコプター救急の現状と展望

【医療関連死】

医療界が主体となって取り組む医療安全の新しい仕組み

医療事故調—対立の概要と展望

医療事故の調査—院内事故調査と第三者機関による調査の関係

【僻地医療】

離島救急の現状と展望—下甕島・手打診療所から

【災害医療】

災害医療の現状と展望—大事故災害時の医療支援 (MIMMS)

わが国の災害医療の新しい展開—

災害派遣医療チーム

(disaster medical assistance team : DMAT)

【DPC】

DPC 対象施設における救急医療の現状と展望

【問題点】

“救命救急”のあり方とその問題点

【地震対応】

大地震時に効果的な救急医療を実施するために

—首都直下地震時の予想重症患者数とマニュアルのあり方

【医師会】

医師会における救急医療の現状と取組み—東京都を中心に

【自衛隊】

陸上自衛隊における救急医療の現状と展望

施設別

地方大学救命救急センターの現状と展望

大都市部・大学病院併設型救命救急センターの現状と課題

地方民間救命救急センターの現状と展望

—東北地方最多の救急車収容の裏側

都市部民間二次救急病院の現状と課題

救急医療各科

救急医療と救急科専門医—その現状と展望

産科・周産期領域における救急医療の現状と展望

小児科における救急医療の現状と展望

—理想的な小児救急医療体制はだれがつくるべきか

劇症肝炎に対する肝移植

外傷救急医療の現状と展望

脳神経外科診療における救急集中医療とのかかわり

—現在と今後の発展

循環器内科（蘇生）における救急医療の現状と展望

心臓血管外科領域の救急疾患とその治療

ER の現状と今後の課題

診断

救急診断 UPDATE—優先順位に基づいたアプローチ

教育

BLS (basic life support) / ACLS
(advanced cardiovascular life support)

外傷診療ガイドラインと教育コース

新たなアプローチ

交通外傷の予防医学—自動車乗員の安全の決め手はなにか
組織欠損に対する新たなアプローチ

—救急医療に関連した再生医療

倫理・メディア

延命治療の差し控えと中止

—患者の利益と医師の心理的負担の視点から

だから今こそ“医療安全調査委員会”を強力に支持しよう！

—救急医療における瑕疵認定の問題

“たらい回し”報道と救急医療の長すぎた蜜月

10) インターナショナル ナーシングレビュー 32/2 2009年

特集 国際看護学・災害看護学の教え方

看護の基本と国際看護

国際看護は異文化看護を包含する：国際看護が扱う範囲について

国際看護の現場で行われるケアの特色

国際看護学の授業の進め方

災害援助活動における看護の役割

さまざまな災害の種類と災害援助活動のサイクル

災害看護における看護師の動きとケアの特色

災害看護の授業の進め方